

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 02 月 19 日作成)

小委員会名	建物の遮音設計(床衝撃音)刊行小委員会		主 査 名：井上 勝夫 就任年月：2006 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 企画刊行運営委員会		委員長名：井上 勝夫 主 査 名：加藤 信介
設 置 期 間	2006 年 4 月 ~ 2008 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1988 年に刊行された建築学会編：建物の遮音設計資料(技報堂)の内容が古くなったことや掲載データの充実化を図るため、新たな知見をもとに遮音設計資料の床衝撃音に関する章のみを対象として新刊を刊行する。 ・ 本年度は、上期に執筆、内容検討を終え、査読も完了する。下期には出版に向けた作業に入る。刊行時、出版物をテキストとするシンポジウムを開催する。 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 井上勝夫(日本大学) 古賀貴士(鹿島建設) 中澤真司(鉄建建設) 岡野利行(竹中工務店) 田中学(日本建築総合試験所 試験研究センター) 中川清(清水建設) 平松友孝(大成建設) 平光厚雄(建築研究所) 安岡博人(ベターリビング) 安岡正人(東京理科大学) 山下恭弘(信州大学) 渡邊秀夫(音・環境研究所) 渡辺充敏(大林組)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2007 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回(年度内計画、合宿を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1．現行書籍(建物の遮音設計資料)を見直し、インピーダンス法による床衝撃音遮断設計方法の主要因の取扱い方法を検討した。また、およそ 1,000 件の床衝撃音データを多方面から収集し、統計的に分類・整理した。 2．若干の遅れがみられるものの、2008 年 6 月入稿、9 月出版の目処が立った。 3．2008 年 12 月、刊行書をテキストとする講習会を開催する。
委員会活動の問題点・課題	1． 2． 3．

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2007 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若干の遅れはみられるものの、2008年6月の入稿、9月出版の目処を立てた。2008年12月には刊行書をテキストとする講習会を開催する。 ・ 建築学会編：建物の遮音設計資料を見直し、インピーダンス法による床衝撃音遮断設計方法の主要因の取扱い方法を検討した。また、およそ1,000件の床衝撃音データをゼネコンやデベロッパー、床材協会等多方面から収集し、統計的に分類・整理して有益な資料を作成した。 			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。